

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 2年 1組 教室
 (3) 学年・学級 第2学年 1組(男子15名・女子15名・計30名) 使用教科書:中学校保健体育(学研)

(4) 単 元 名 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

第1学年で、運動やスポーツの多様性について学習している。

【単元のねらい】

運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解することができるようにする。

(ア)運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることについて理解できるようにする。

(イ)運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることについて理解できるようにする。

(ウ)運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることについて理解できるようにする。

【生徒の状況】

体育分野の運動をともなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組めますか。」の項目では50%(15名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果 〈スポーツが心身と社会性に及ぼす効果【学研】〉 ・運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第2次 (1時間) 本時	運動やスポーツの学び方 〈スポーツの学び方【学研】〉 ・運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があること。 P76~77	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第3次 (1時間)	運動やスポーツの安全な行い方 〈スポーツの安全な行い方【学研】〉 ・運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 2年 1組 教室
 (3) 学年・学級 第2学年 1組(男子15名・女子15名・計30名) 使用教科書:中学校保健体育(学研)

(4) 単 元 名 健康な生活と疾病の予防

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

第1学年で、健康の成り立ちと疾病の発生要因及び生活習慣と健康について学習している。

【単元のねらい】

健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ウ)生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できることについて理解することができるようにする。

(エ)喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があることについて理解することができるようにする。

【生徒の状況】

体育分野の運動をともなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組みますか。」の項目では50%(15名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

(6) 指導計画(全6時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	生活習慣病などの予防<生活習慣病とその予防【学研】> ・生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第2次 (1時間) 本時	生活習慣病などの予防<がんとその予防【学研】> ・生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。 P90~91	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第3次 (1時間)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康<喫煙と健康【学研】> ・喫煙の行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第4次 (1時間)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康<飲酒と健康【学研】> ・飲酒の行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第5次 (1時間)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康<薬物乱用と健康【学研】> ・薬物乱用の行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第6次 (1時間)	喫煙、飲酒、薬物乱用と健康<喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけ【学研】> ・喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

(1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)

(2) 場 所 1年 1組 教室

(3) 学年・学級 第1学年 1組(男子15名・女子15名・計30名)

使用教科書:中学校保健体育(学研)

(4) 単 元 名 心身の機能の発達と心の健康

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

小学校第5学年で、心の発達及び不安や悩みへの対処について学習している。

【単元のねらい】

心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすることについて理解することができるようにする。

(ア)身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があることについて理解することができるようにする。

(イ)思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となることについて理解することができるようにする。

(ウ)知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされることについて理解することができるようにする。

(エ)精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があることについて理解することができるようにする。

【生徒の状況】

体育分野の運動をともなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組みますか。」の項目では50%(15名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

裏面に続く

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

(6) 指導計画(全9時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	身体機能の発達<体の発育・発達【学研】> ・身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第2次 (1時間)	身体機能の発達<呼吸器・循環器の発達【学研】> ・身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第3次 (2時間)	生殖に関わる機能の成熟<生殖機能の成熟【学研】> ・思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第4次 (1時間)	精神機能の発達と自己形成<性とう向き合うか【学研】> ・思春期には、生殖に関わる機能の成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第5次 (1時間)	精神機能の発達と自己形成<心の発達(1)知的機能と情意機能の発達【学研】> ・知的機能、情意機能などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第6次 (1時間)	精神機能の発達と自己形成<心の発達(2)社会性の発達【学研】> ・社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第7次 (1時間)	精神機能の発達と自己形成<自己形成【学研】> ・思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度
第8次 (1時間) 本時	欲求やストレスへの対処と心の健康<欲求不満やストレスへの対処【学研】> ・精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。 P60～63	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。

校種・教科等	中学校・保体	受審番号		氏名	
--------	--------	------	--	----	--

中学校『保健体育科』 模擬授業課題

- (1) 日 時 令和5年〇月〇日 第〇校時(50分)
 (2) 場 所 2年 1組 教室
 (3) 学年・学級 第2学年 1組(男子15名・女子15名・計30名) 使用教科書:中学校保健体育(学研)

(4) 単 元 名 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方

(5) 指導する児童(生徒)の状況

【既習事項】

第1学年では、運動やスポーツの多様性を学習している。

【単元のねらい】

運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解することができるようにする。

(ア)運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できることについて理解できるようにする。

(イ)運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があることについて理解できるようにする。

(ウ)運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があることについて理解できるようにする。

【児童(生徒)の状況】

体育分野の運動をとまなう活動を行う授業についてはほとんどの生徒が積極的に活動できるが、体育理論や保健などの教室で学習する授業については消極的な生徒が多い。事前アンケートでは、「体育理論や保健などの教室で学習する授業に積極的に取り組めますか。」の項目では50%(15名)の生徒が否定的な意見を持っている。体育理論や保健の授業では、自分の意見を持っているが発言や発表をすることに対して消極的である。

(6) 指導計画(全3時間)

次(時数)	学習内容	活動・指導形態	評価計画
第1次 (1時間)	運動やスポーツが心身及び社会性に及ぼす効果 〈スポーツが心身と社会性に及ぼす効果【学研】〉 ・運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第2次 (1時間)	運動やスポーツの学び方 〈スポーツの学び方【学研】〉 ・運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があること。	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度
第3次 (1時間) 本時	運動やスポーツの安全な行い方 〈スポーツの安全な行い方【学研】〉 ・運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。 P78～79	一斉 個別 ペア・グループ	知識 思考・判断・表現 主体的に学習に 取り組む態度

●面接終了後、メモ用紙とともにクリアファイルに入れて提出してください。